

- * 震災から1か月。
- * 市町村ではようやく避難所やボランティアの受入など運営面は落ち着きが出てきました。
- * 一方、運営が落ち着く反面、市町村レベルではこれまで見えなかった避難所や在宅避難に対する生活支援のニーズが見えてきたようです。
- * そんな中、いくつかの市町村から「地元や近隣の支援だけでは人出が足りない。避難所や在宅避難での生活支援ニーズに対応する支援プログラムを手伝ってくれる人を一定期間(2ヶ月程度)張り付きで派遣して欲しい」という要請が上がってきました。
- * 県レベルで人一人を1カ所に一定期間派遣することが難しい中、「一人をずっとは無理だが、県内関係者の協力を得て、ローテーションで対応する」、「県内での対応は無理だから、不平等感が出てしまうので断る」と分かれました。
- * あなたなら、どちらの意見に賛同しますか？

A	ローテーションでやりくり 2ヶ月もの間、一人を張り付けるのは難しいので、ローテーション(1週間1人で8週間)を組んで、対応したほうが良い		名
B	不平等感が出てしまうので断る 内部での対応は無理。外部で依頼して確実に対応してもらえるところがわからないので断ったほうがよい。		名

- * 震災から1か月。
- * 市町村ではようやく避難所や災害ボランティアセンターの運営も落ち着きが出てきました。
- * 外部からの支援の窓口として、県ボランティア本部も認識されるようになってきました。
- * そんな中、外部からの支援の申し出が集まりだす中、「足腰が不自由な方々には使用しづらい和式のトイレを100基程度、簡易の洋式トイレに改善する支援を無償で提供したい」という申し出がありました。
- * 県内の避難所などには、洋式への改善が望まれるトイレが100基をはるかに超える数が存在します。
- * 平等という観点から「全ての市町村に一度照会をかけて、要望を募り調整する」という意見と「一部しか改善できないのは不平等になってしまうので断る」という意見に分かれました。
- * あなたなら、どちらの意見に賛同しますか？

A	市町村に要望を聞く 全ての市町村に照会をかけて、各市町村からの要望を取りまとめて、100基の配分の調整をしたほうが良い		名
B	断る 一部の市町村、一部の避難所しか改善できないのは不平等になってしまうので、断ったほうが良い		名